No.
Date: '26・4・13

Capo. 0 オープンD
ノーマルD

夏至の余白

D A Bm D Em G A
夕方になっても まだ昼間のような
D A Bm G Em G A
電車が去った 明るいホームに
Bm A G D Em Bm A G A
La La La ...
D Em G
肩から落ちてく 一日の重さ
F#m Bm A Bm A Em G Em
わずかに風が 頬を撫でる
D Em
帰ってきた この駅の
F#m Bm D A G Em
階段をよじ登る

D Bm Em G
風はまだ昼の名残の
A Bm G A
楽しさを そっと届けてくれる
D
この肌に触れるたび
Bm G A D A
時間がゆっくり伸びてゆくように感じる
D A Bm D Em G A
夕方の光 まだ明るくて
D A Bm G Em G A
ビルのガラスも 淡い金色に
Bm A G G D Em Em Bm A A G A
La La La ...

No.
Date.

改札抜けた 駅前の広場
進む その先のスーパーに立ち寄り
ごほうびのスイーツの
値引きを選ぶ楽しさ

夏至の光は急がずに
押し付けてくることもなくて
ただそこに満ちていて
一日の終わり柔らかく伸ばしてくれる

夕方になっても まだ昼間のような
街の輪郭 明るい余白に

La La La ...

No.
Date. '26・5・8

Capo.1 ノーマル Em

Em

命の洗濯日和

Em D C Bm Am Bm D Em Em D C Bm Am Bm D Em

Bm D G Em Am Bm D Em
そっと降りそそいでる 朝の光が
Bm D G Em Am Bm D Em
肩に触れた時に 気づかせてくれた
C D G Em D Bm Em D
今日はきっと 命の洗濯日和
C D G Em D Bm Em
これまでの重さを 少しずつ外して

Bm D G Em Am Bm D Em
風に揺れて届く 草の香りが
Bm D G Em Am Bm D Em
呼吸をする喜び 気づかせてくれた
C D G Em D Bm Em D
今日はきっと 命の洗濯日和
C D G Em D Bm Em
背中の重さも ひとつずつ解いてゆく

G Em C Am7 D7 D G D G Em C Am7 D7 D Em
「大丈夫」とこの光が なくしたものを手渡してくれる

G D Em D C Bm Am G
眩しさの中で 自分が少しだけ変わってゆく
G D Em D C Bm Am G
それだけのことで 心は少し柔らかくなる

No.
Date.

胸の奥に潜む 名もなき疲れが
光に当たって 少しずつなくなる
今日はきっと 命の洗濯日和
気づかなかった 痛みも溶けてゆく

「大丈夫」とこの光が なくしたものを救ってくれる

何かが静かにほどけてゆく 風が通るたび
それだけのことで 心は少し暖かくなる

そっと降り注いでる 朝の光が
肩に触れた時に 気づかせてくれた
今日はきっと 命の洗濯日和
これまでの重さを 少しずつ外して

No.
Date. '26 4・20

Capo.3 ノーマルG

B♭

コンコースの噴水

Em D C C Em D C C
G D Em C D Bm F#dim D
洒落た駅前のコンコースで

Am C Em G Am Bm Em D
絶え間なく人々が行き交っている

G D G Am D G
噴水は今日も別の時間を

Am7 D7 G Em D D7 F#dim G
跳ね上がる水と共に生きている

G Am7 D D7 G D
山間の冷たさと川面のきらめきと

G Am7 D D7 G D
遠い旅路の思いそっとよみがえってくる

Em Am7 C D Bm Em
立ち止まり潜んだ気配に耳澄ます

Em Am7 C D Bm Em
見たことのない景色さえ懐かしく

No.
Date.

Em D C C Em D C C
G D Em C D Bm F#dim D
喧騒の中のコンコースで

Am C Em G Am Bm Em D
途切れることなく噴水語り続けてる

G D G Am D G
今ここにいる水たちが

Am7 D7 G Em D D7 F#dim G
歩んできた長い記憶語り続けてる

G Am7 D D7 G
まだ川だった頃石に触れ草も揺らして

G Am7 D D7 G D
まぶしい太陽の光を運んでは月の影も運んだ

G Am7 D D7 G D
今は大い池に囲まれ空へ向かって放つ

G Am7 D D7 G D
誰も人々は気づかずその声をすり抜けてゆく

Em Am C D Bm Em
跳ね上がるしぶき空気を震わす

Em Am C D Bm Em
濡れた石畳そっと受けとめてる

No.
Date. '26. 5. 1

Capo. 2 1-マルC
Capo. 0 オープンD

D

草原でひときわ

☆ 夏の草原の中で見たもの
しなやかに背を伸ばした野草ひとつ
茎は風の流れを読んでる
葉は光をすくい揺れてる
Am G F Dm7 E F B7/A Am G Em F G
夏風の光 強く受けながらも
吹き抜けてくる風をまともに受けて
背を伸ばした野草ひときわ

草原のただなかでひとり立つように
折れず逆らわず しなやかに伸びて
自分の軸だけを守っていた
C G Am C F C Dm7 G7
柔らかさと強さの中で
その茎は弧を描いて葉の緑光をすくい
揺れてる影さえ緑に染めてゆく

No.
Date.

(☆～☆☆)

乾いた大地の奥 伸びたその根は
確かな地面の鼓動を受け取っていた
背を伸ばした野草ひときわ

草原の中でただひとり立つだけ
名もなく飾りもなく強く伸びて
息づかいが聞こえてくる

折れそうで折れることなく
細い糸のような強さ
揺るぎなさ息づいてる
大地の温もりそっと抱きしめてる

(☆～☆☆)

No.
Date. 23・3・21

Capo.3 ノーマル(G)
Capo.1 オープンD

(B♭)

旅びとよ

G G#m Em C C#m C#m D
~~(オープン) G D Em D Am C C#m D~~

G
思いつきで バスに乗って Em 遠くの海
C
ここにくると計画していた わけでD なく
G
晴れた空に期待を込め Em 思い立って
C
今を忘れ癒し求め 気分を変えD る 旅びとよG

G
旅びとなぜ Em 旅をするのか
Am
答えは言葉にD 出来ない
Em
けれども一つ Am 言えることは
D
どこかに自分をG 探してD る

Am7
はっきりさせG ることD でなG く
Am7
ゆっくりG と答えD を探したいのかEm も

ノーマル+オープンD

No.
Date.

陽の眩しさ 白く光り 青い海に
遠く近く揺らぎながら 散りばめられて
日常の喧騒から すっかり離れ
目の前 広がる自然に 身を委ねる 旅びとよ

旅びとなぜ 旅をするのか
誰もが曖昧としている
なぜなら やりたいことに
理由などあるはずないから

誰にも気兼ね することもなく
のんびり気ままに 過ごしたいのかも

No.
Date. '26. 5. 19

Capo. 1 ノーマルEm

Fm

鹽竈の記憶

Em D C C Em D C D

Em G D Bm
夕日が杉の木 斜めに染め

Em G D Em
石段の上 影を落としてる

C D Em C D Em D7
遠くなってゆく 昼のざわめき

Em G D Bm
2010年の記憶の中

Em G D Em
幾度か訪れた神社のそば

C D Em C D Em D7
昔ながらの茶屋 今もあるだろうか

G D Em C
震災前 鹽竈の夕方

G D Bm Em
ただ静かに その日が終わってた

Em D Bm Em G D
潮風の香りを身体中 ほんのりと感じて

G D Bm Em
苔むした灯籠に"守られてる"気分思い出す

No.
Date.

鳥居の赤は 景色に溶けて

長い歴史の深さを語る

静かに夜の火を灯すように

2010年のあの夜は

ちょうど行事が催されてた

降りた町から 光る石段

震災前 鹽竈の寿司屋

熱いお茶を ゆっくり飲みほす

一日の疲れを身体中 心地よく感じて

照らされた参道に"守られてる"気分思い出す

No.
Date. '26. 5. 11

Capo. 1 ハーフル G

C#

HI と AI

C Dm F G C Dm F G
La… Lu…

G Am G Am F G Dm Am
HIで夏の歌を書く　AIで言葉与えて

夏のキーワード見つけてゆく中

G Am G Am
何気ない画像　出てきた言葉をヒントに

F G Dm Am
余韻求めて　感情に結びつけてゆく

Dm7 G7 C Am
今日はいつもと違う　今日はいつもの

Dm Em Am C
深掘りを求めている　自分の好みの言葉を

Dm7 G7 C Am
これまでのこと忘れて　これまでのデータで

Dm Em Am
違うものこさえて　思いがけない言葉で

裸足のままで　白南風〔しらはえ〕のように
ポッンと立ってた　形を持たぬまま世界をなぞり
あたたかい　草いきれの向こう人の気配を
土の上に　そっと読みとっている

自分の姿を思い　誰かの気配
なぞるように確かめながら　背中に感じながらも
ここにいる感触を　あたかも自分の
自分の言葉で探す　存在求めて

☆ C Dm F G C
ふた通りの プロセスにより
C Dm F G C
同じテーマ 溶け合わせてゆく ☆☆

No.
Date.

C Dm
HIは心に残っていた　心に残ってた

Fm
一枚の画像からつながる　つながる

F
記憶の引き出し　記憶の

＊ C Dm
AIが示すアルゴリズムとどこかで
Fm F
ひとつの感覚で結ばれる　＊＊

HIは胸の奥に　AIは風鈴の音のように
透明な理〔ことわり〕を響かせ
眠る古い思いを揺らす　どこからともなく魔法のように
瞬間に言葉並べ
今日はいつもよりも　今日はいつもと
深掘りを求めて　同じように答えて
これまで気づいてない　これまでのデータに
自分の心探して　ニュアンス合わせて
セミの声が　静かな野辺に響き渡る
聞こえてくる　見えない大きさのセミ達が
一瞬の命　あたかもここにいると…う証を
燃やす儚さと　はっきりと示しながら
自分の人生と　見えない気配
長さが違ってるだけで　背中に感じながらも
同じ運命を　言わずと知れた
たどってることを悟る　運命を悟る

☆～☆☆

HIは命のそのものの温度で　心に直感で
直感につながる言葉をつなぎ　つながる言葉を

＊～＊＊